目黒稲門会会報

（題字：眞仁田　勉　初代会長）

第66号　2015年3月

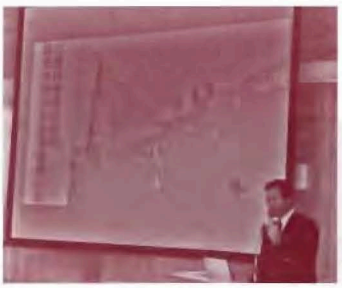
発行人：吉田　博行　編集長：地田　博昌　事務局長：安藤　孝

事務局：〒152-0002　目黒区目黒本町6-4-16　Tel 03-3716-7477

2015年　新年会を開催

2015年目黒稲門会新年会は、1月18日（日）目黒雅叙園「華しずかの間」にて開催された。会員・ご家族90名、来賓2名、現役学生4名、応援部からチアリーダー2名、計98名の盛大な新年会だった。

午後4時、笠谷興一朗幹事の司会で、第1部講演会が開会。講師の母校応援部監督・竹沢久喜氏が紹介された。竹沢氏は「早稲田大学応援部の裏話」と題して約1時間の講演を行った（要旨後述）。



暫し休憩の後、再び笠谷幹事の司会で第2部懇親会に入った。始めに吉田会長が新年の挨拶を述べた。

吉田会長挨拶

『明けましておめでとうございます。講演では応援部のまじめな姿が良く分かった。今日は、90歳の先輩から1歳の赤ちゃんまで、100名近い稲門の友が集うかつてない盛大な新年会です。当会は、会員相互の親睦と地域貢献、ボランティアに励んでいる。今年は未年だが、羊は群れをなして行動する。安泰、平和の意味がある。干支にちなんであやかりたい。皆様に楽しんで頂ける会にしていきたい。稲門会の更なる隆盛にご理解ご協力頂き、平和で穏やかな年にしていきたい。』

次に青木目黒区長より挨拶があり、箱根駅伝での早稲田の健闘を讃え、区政の報告を行った。

乾杯の発声は、猪名川幹事によっておこなわれた。猪名川幹事は挨拶の中で、目黒稲門会の女性比率が増えていることを紹介した。

歓談に入り、恒例の初参加会員紹介が行われ、吉野博明、田添麻友、細谷　清、佐藤光伸、小林一光の各氏が挨拶した。

（左から吉野、田添、細谷、佐藤、小林氏）

歓談が進むと、式次第にないサプライズで、米寿の安藤虎雄氏、海口昭治氏、外岡　明氏に花束の贈呈があった。

稲垣ボランティア部会長より、新たに目黒稲門会として取り組む「サクラ基金」について説明があり、善意の募金が呼びかけられた。

宴たけなわとなり、竹沢応援部監督とチアリーダー2名で「紺碧の空」の普段と違う本格的な応援実技の披露があった。引き続き、全員起立しての校歌斉唱。竹沢監督の指導で熱の入った「都の西北」を斉唱した。

「ワセダ、ワセダ」の応援実技の余韻を残しながら、永田幹事が中締め挨拶をおこない、午後7時お開きとなった。　（田島　記）

竹沢応援部監督講演要旨

［母校応援部の歴史と精神を、150枚のスライドで紹介］

応援部は、時代の変遷により変わっている。明治38年安部磯雄先生は、日露戦争下にアメリカに野球遠征を挙行。野球部より米国の応援の話を聞いた吉岡信敬は応援隊を作った。ヤジ将軍と言われ、馬に乗って応援に駆け付け、バットを振り回して指導。「フレーッ、フレーッ」のエールを日本で初めて行った。応援団同士の争いで、明治39年から大正14年まで19年間早慶戦中止。

昭和2年「若き血」ができて慶応が勝っていく。昭和6年、早稲田の「紺碧の空」は、当時無名の古関裕而ら2人が作った。徹夜で詩と曲を作り、作曲代は当時2円50銭のペナントだけ。この「紺碧の空」で早稲田の快進撃が始まる。

昭和8年、リンゴ事件。早慶戦で慶応の水原茂が審判に抗議。早稲田の学生が水原にリンゴを投げ、これを水原は投げ返した。早稲田は逆上し、慶応は逆転勝利。終了後早稲田の学生が慶応応援部に押しかけ、指揮棒を盗んだ。以来、早稲田は応援部廃部。

昭和10年、各体育会から委員を募って応援。昭和15年、現在の応援部が創部。早稲田応援の父と言われる野中虎之助が大学職員で監督となり、勝利の拍手など考案した。昭和17年戦時色強くなり、体育会は休部。応援部は、学徒錬成部として規律統制の指導をしていく。昭和18年、最後の早慶戦。

昭和21年大学公認部となる。昭和24年、早稲田勝利の写真には、右端に外岡教授（外岡相談役の父君／野球の殿堂入り）も見えた。

昭和27年、応援部のバンドができた。

昭和35年早慶6連戦があり、引き分け、また引き分けで第6戦まで行った。6万2千人収容の神宮球場に8万人が並んだと言う。当時日本シリーズが4万人だった。

昭和40年秋に「コンバットマーチ」ができて、昭和41年、慶応に連勝。昭和52年、六大学中最後にバトントワラーズ隊が誕生。この時の新人が昭和55年に幹部になり、昭和57年、副将も各パートから出て三位一体となった。一斉にタバコの煙を吐く「煙幕作戦」というのもあった。今は禁止されている。

早稲田の応援テクニックは、歌舞伎の六方にヒントを得ている。今後、怪我対策、コーチ陣の充実、ECO、文武両道の早稲田アスリートプログラム（WAP）、など課題は多い。今後も「たくましい根に美しい花を」をモットーに発展させていく。

新年会出席者（敬称略、五十音順）

（来賓）

青木英二・目黒区長、竹沢久喜・講師

（現役学生）

神谷佳奈、竹山翔太、出崎毅哉、前田　眸

（チアリーダー）

末松知紗、池内文音

（会員・ご家族）

朝比奈義雄、阿部喜久雄、荒瀬修一郎、安藤　孝、安藤虎雄、安藤嘉昭、石川智子、市瀬一江、市瀬達夫、伊藤　悠、稲垣博信、猪名川一雄、井村正陽、岩佐幸子、岩佐好恭、岩崎春雄、岩崎正夫、岩田　修、鵜野洋治、海口昭治、大内秀明、大久保健治、大杉邦雄、大竹一子、大野利幸、尾崎　充、小野　満、笠谷興一朗、梶　恵作、柏木　博、加藤榮護、加藤令夫人、金井豊男、狩野俊夫、川井信義、川崎真樹子、菊地崇之、木村昭一、小池早苗、郡山弘文、郡山令夫人、後藤克彦、小林一光、佐久間　喬、佐々木芳子、佐藤光伸、澁谷美香、嶋田勝彦、島田久家、高野　孝、高橋圭吾、田島順一郎、田添麻友、堀合　努（田添）、堀合義統、堀合摩利、堀合将統、田畑　繁、地田博昌、千野逸平、手塚仁雄、外岡　明、外岡令夫人、永井正孝、長島清志、永田耕治、中西千可子、中西元樹、中西令夫人、成田隆一、服部尚彦、林田雅敏、林田令夫人、細谷　清、堀井良造、松田哲也、眞仁田　勉、丸山忠生、水野弘文、村上　柾、村山　弘、保井　正、柳澤秀樹、山口優幸、吉田博行、吉田令夫人、吉野博明、吉野令夫人、吉本政治、吉本令夫人

各部会からの案内・報告

ウォーキング部会

やっと温かさを感じられる季節になってきましたが、皆様は体調はいかがですか。

実施結果と今後の予定をお知らせいたします。

皆様、お誘いの合わせのうえご参加ください。

なお初参加、女性の方大歓迎です。

実施報告

12月例会　殿様の別荘地池田山公園から白金自然教育園へ
12月16日（火）　参加9名

1月例会　港区七福神巡り
1月6日（火）　参加16名

新年最初のウォーキングは恒例になりつつある七福神めぐりです。亀戸、山手に続き本年は港七福神をめぐりました。当地の七福神は宝船の巡拝所を加え、6社2寺で構成されています。夕方に雨が降る予報ではあったのですが、気温が15度ということで、元気に地下鉄・麻布十番駅から出発しました。

宝船巡拝所から始まり、2番目の大法寺（大黒天）では甘酒の振る舞いを受け、毘沙門天、寿老人と続き、福禄寿あたりから雨が強まり、傘を差しながらの寒い中での歩きになりました。途中、喫茶店で体を温めて、布袋尊、恵比寿、弁財天と無事めぐり終えました。その後、目黒駅に出て恒例の反省会で心身ともに温まり散会しました。

2月例会　鎌倉三十三観音めぐり第1回
2月17日（火）　参加15名
2月からは、4～5回に分けての「鎌倉三十三観音めぐり」が始まりました。

今後の予定

3月例会　府中、国分寺を歩く
日　時　3月17日（火）　午後1時
集合場所　京王線府中駅改札外

4月例会　鎌倉三十三観音めぐり第2回
日　時　4月15日（水）　午後1時
集合場所　ＪＲ鎌倉駅改札外

5月例会　江戸の名残の赤坂付近
日　時　5月19日（火）　午後1時
集合場所　ＪＲ四ツ谷駅改札外

6月例会　鎌倉三十三観音めぐり第3回
日　時　6月16日（火）　午後1時
集合場所　ＪＲ鎌倉駅改札外

以上小雨決行です。参加される方は下記までご連絡ください。

牧野連絡先　携帯　090-9649-6868
ウォーキング部会長　牧野武夫

ボランティア部会

東日本大震災の年にスタート致しましたボランティア部会の活動も皆様のご支援をもちまして順調に5年目を迎えました。発足以来、主に「ポリオワクチン募金（1口100円ワクチン5本分）」に取り組んでおり、募金はミャンマー、ラオス、ブータン、バヌアツ等の医療に恵まれず病気に苦しむ発展途上国の子供達のポリオワクチン購入資金義援金としてJCV（ＮＰＯ法人世界の子供にワクチンを日本委員会）を通じユニセフに寄付しております。

皆様からご寄付戴いた募金の現在までの寄付金額は、総計455,000円になりました。

「目黒区のサクラ基金」の募金活動スタート

従来より地域社会（目黒区）に直接貢献出来る活動もしたいと模索していましたが、数年前から目黒区役所みどりと公園課・公園計画係で行っている「目黒のサクラ基金」にも本年（平成27年）より参加協力することに致しました。

目黒区内の公園施設、川沿、緑道、街路樹等の1000本余りのサクラの樹木がすでに60年近く経過し、老木化し樹勢が衰えて来ているため保護や植え替えが必要となって来ています。このままでは毎年皆さんが楽しんでおられるお花見等も難しくなり、子供や孫達にも素晴らしい環境を残していけなくなってしまいます。

目黒区の緑の素晴らしい環境を後世にも残し伝えて行くために、皆様のご支援をお願い致します。募金方法は総会、新年会時に1口500円以上の募金をお願いし、従来の1口100円募金からは7割を「目黒のサクラ基金」へ、3割を「ワクチン募金」へ寄付させて戴く計画です。

ご理解と一層のご協力をお願い申し上げます。

ボランティア部会長　稲垣博信

美術・歴史鑑賞部会

今年の美術・歴史鑑賞部会の活動として第50回（3月4日実施）は、上野公園にある東京都美術館で開催中の「新印象派―光と色のドラマ」展を鑑賞。

“新印象派”とは、1880年代半ばから1900年代初めにかけて活動した点描技法を用いた画家たち（ジョルジュ・スーラ、ポール・シニャック、カミーユ・ピサロ）のことです。

彼らは、揺れる水面や陽光のうつろいなど自らの目に映る世界を描き出そうとし、それにふさわしい様式を作り出しています。マティス、ドランの色彩あふれる作品を含め、世界12ヶ国の美術館や個人のコレクション等約100点が出展されています。

第51回（4月）には、京橋にあるブリヂストン美術館「ベスト・オブ・ザ・ベスト」展（5月17日まで開催）を鑑賞予定。5月18日からビル建て替えによる新築工事のため長期休館に入るため、最後を飾る展示で、石橋財団コレクションの中から選び抜いた約160点の作品が展示されています。マネ、ルノワール、ピカソ等人気の名画がずらりと並んでいます。

第52回（5月）には、六本木の国立新美術館「ルーヴル美術館」展（6月1日まで開催）。フェルメールを筆頭に風俗画の名画が来日します。

16世紀から19世紀半までのヨーロッパ風俗画をテーマに約80点。貴族や召使等いろいろな職業の男女を描写しています。

興味ある美術展が開催されていますので鑑賞部会へのご参加よろしくお願いいたします。

美術・歴史鑑賞部会長　　後藤克彦

よん月会

―「よん月会」が「さん月会」に変わります―

本年2月で第187回を数えました毎月1回の“呑み会”が、この4月以降開催日が変更になります。

過去何度かの変遷を経て、毎月第4月曜日に集まることで「よん月会」と呼称して参りましたが、4月以降は毎月第3月曜日の開催となります。

場所・時間・料金に変更はなく、都立大学駅前の「やるき茶屋」3717－4591にて、夕方6時から、4,000円の会費です。

今後の予定は、3月23日（月）が最後の「よん月会」で、4月20日（月）が最初の「さん月会」です。
毎回20名以上の方に参加いただいております。

これからも　美味しいお酒と料理で大いにご歓談下さい。

よん月会部会長　　安藤　孝

俳句部会

俳句部会では、句会の新主宰に中原道夫先生を昨年10月より迎え、先生の丁寧で洒脱な解説により一段と楽しく俳句を学んでいます。

定例句会（萩句会）
毎月第2月曜日　14時～17時
下目黒住区センター会議室

終了後、中原先生を交えてお酒を味わいながら反省会を行っています。

俳句が初めての方など皆様のご参加をお待ちしています。

中原道夫先生の略歴
俳句結社「銀化」主宰。
新潟日報俳句選者、「俳句研究」読者俳句欄選者、NHK　BS俳句王国選者、松山俳句甲子園審査員、俳人協会理事など。
テレビ、ラジオでひっぱりだこの売れっ子俳人であり、卓抜な機知を駆使し21世紀の風狂の俳諧師とも呼ばれています。

第68回「萩句会報告」
日時　2015年1月12日（月）14時～17時

（順不同）

川井素山	河豚一片繪皿に残る偲ぶ会
保井寶正	初春や金婚の年迎えけり
青木英林	眉上げて寝ずの番する雪だるま
後藤克彦	着ぶくれてなお寒きかな太子道
佐久間喬	雪だるま予報画面を占拠せる
永井正孝	ラガーらの攻める塊地を鳴らす
丸山酔宵子	焚きたての秋田小町に寒玉子
長島清山	中天に月凍てつきて年あけぬ
菊地崇之	消え入るや雄雄しくありし雪達磨
牧野里山	雪達磨昔の友を思い出す
佐久間たか子	散歩径何処に香る野水仙
佐伯武雄	福詣り朱印集めて万歩超ゆ
大山竜海	雪だるま路傍に在りて道しるべ
山本草風	黎明に香華手向けて淑気みつ
金森純女	そこここに雪礫あり日の暮れて

俳句部会長　　佐久間　喬

麻雀部会

1. 2月16日（月）目黒稲門定例麻雀大会が武蔵小山　サンにて開催。
2. 4月11日（土）目黒区、世田谷区、大田区の3区親善麻雀大会が渋谷スリーハンドレッドにて開催されます。皆様奮ってご参加下さい。

麻雀部会長　　鵜野洋治

旅行部会

◇三陸海岸旅行記◇

旅行部会は平成26年11月21日（金）より1泊2日で三陸海岸の旅行を実施いたしました。昨年4月に全線開通した三陸鉄道・北リアス線に乗ることと、東日本大震災からの復興状況を見ることが大きな目標でした。今回も「クラブツーリズム」の主催旅行を一部買い切っての旅行となりました。

目黒稲門会としては13名の参加でしたが、旅行全体では79名の大部隊となりました。

今回の旅行を通じ、大震災から3年半以上が経過した三陸海岸をはじめ東北地方の復興はまだまだという現実を目のあたりにしました。新聞、テレビ等メディアから発信されてくる情報は何か遠くのものにしか感じられなかったものが実感として心に大きく響き渡った旅となりました。そして、今我々が何が出来るのかを改めて考えさせられる旅でもありました。

東京駅午前7時36分発はやぶさ3号に乗車、盛岡着9時52分。バス2台に分乗し、車内で牛肉弁当を食べながら最初の訪問地、日本三大鍾乳洞の1つで、国の天然記念物に指定されている「龍泉洞」を訪ねました。青く深い地底湖の神秘性に思わず息をのみました。また、ここには5種類の蝙蝠が生息しており、これも天然記念物に指定されています。

見学後、約1時間バスに揺られ，北山崎の展望台から太平洋の眺めに感嘆しきりでした。バスで30分程南下し、三陸鉄道島越駅到着。ここは津波で駅舎全体が流されて、この4月に高台に移設し再建され、三陸鉄道・北リアス線全線復旧となった所です。

ここから約40分のローカル線の旅を経験しました。宮古への車中は6割位がトンネルで、トンネルを出るとどこの町も津波に襲われた町ばかりとのアナウンスがあり、自然の力にただただ恐れを抱くばかりでした。

島越駅からの回送バスを待つ間に見た宮古駅周辺は仮設の店舗、家、土台だけ残した更地ばかりが目に付き、イメージの漁業の港町という風情があまり感じられないと思いました。

泊まりの「休暇村陸中宮古」では我々だけでの別席を予約し、「三陸漁火料理御膳」での舟盛り、ホタテ、アワビの網焼き、ウニ飯などに舌鼓をうち且つ呑みでおおいに盛り上がった夕食でした。

翌22日も晴天に恵まれ、最初の見学地「浄土ヶ浜」から遊覧船に乗船し、海からのリアス海岸の景色を楽しむことが出来ました。この日はアワビの解禁日とあり「さっぱ舟」と呼ばれる小さな漁船が何十艘と出漁しており「あまちゃん」の世界を見るようでした。また、乗船した遊覧船「陸中丸」は津波来襲時に出港出来る状態にあり、沖に出て津波の被害を逃れたとのことでした。

三陸海岸を南下、山田町、大槌町、釜石市から大船渡市の碁石海岸へ。途中、昨日からのガイドさん（若いけれど物知りで美人）の津波来襲時の事、その直後の事、ボランティアの活動の事、仮設住宅の事、復旧への道のりの事などの話は涙なしでは聞けない事ばかりでした。

午後は三陸海岸を更に南下、陸前高田でコンクリートで再現された「奇跡の一本松」見学。町中はさながら工事現場と化し、何キロにもなるベルトコンベアーが張り巡らされており、盛り土の現場だらけ、ダンプは走りまわり、到底復興している町とは言えない状況でした。

夕刻、気仙沼での買い物の後、一ノ関駅へ。18時37分発新幹線やまびこ号にて東京へ、21時12分着無事解散。

ガイドさんが言っていた言葉が心に残ります。

「復興への皆さんからの応援は現地へ来て、泊まって下さい。買い物をして下さい。来られなければ東北のものを買って下さい。」

「のど元過ぎれば熱さ忘れる」ではいけないです。東日本大震災への応援と災害への備えを今一度考えなおそう。

旅行部会長　　井村正陽

カラオケ部会

カラオケ部会は毎月第2金曜日に開催しておりますが、昨年12月12日（金）は定例会&忘年会と銘打ち30分延長した上、VIPルームを使って開催されました。(場所は定例のコートダジュール目黒駅西口店)

総勢19名という普段の倍近い参加者が集い、16時から19時30分の3時間半という長丁場の中、歌えたのは1人2～3曲で、もの足りなく感じたと思いますが、和気藹々と楽しい時間を過ごすことが出来ました。

歌い納めには校歌「都の西北」をいつものように全員で斉唱し、部会長からの閉会の辞が終わったところへ若木会の石川智子さんが花束を持って駆けつけてくれました。拍手の中、12月に退任の田畑部会長へ花束を贈呈し、賑々しく散会した次第です。

なお、後任に梶　恵作、副部会長に佐藤健二氏が本年から就任しました。

カラオケ部会長　　梶　恵作

早稲田スポーツ観戦部会

12月7日（日）、好天に恵まれた秩父宮球技場で行われた伝統の一戦ラグビー早明対抗戦を14名の会員と応援観戦に行きました。我が早稲田は全ジャパン藤田の復帰もあり37－24で戦前の不利予想を跳ね返し快勝しました。今年のスポーツ観戦会は、あまり良くない戦績でしたが年末最後の勝利で大変に盛り上がりました。

試合終了後は近くの居酒屋で来年の早稲田スポーツの活躍を期し、美味しいお酒をたっぷりと酌み交わしました。

早稲田スポーツ観戦部会長　　狩野俊夫

原稿募集しています

編集委員会では、皆様の原稿を募集しています。まずは、編集部へメールにて原稿用紙をご請求下さい。他の原稿用紙をご使用の場合も歓迎致します。皆様の傑作、労作をお待ちしております。

ようこそ！部会活動へ

若木会へのお誘い

若木会部会長　　中西元樹

目黒稲門会若木会は大きく2つの目的を達成するために日々活動しています。

① 目黒区にゆかりのある若年層校友の交流

早稲田大学では開校150周年を目指し、若手校友の活動を活発化させるべく多くのイベント活動を行っています。目黒稲門会としても地域レベルの活動から大学の活動の底力となるべく、若手校友中心の活動をしてきました。また近年は、未来の校友である現役学生にも視野を広げ、活動の幅を広げています。

② 目黒稲門会先輩方との交流橋渡し

地域稲門会は、地区に例外なく、参加者の年齢層が高い傾向にあるため、若手の受け入れに課題を持っています。そこで、若木会は①の活動を通して若手の受け皿となり、さらにそこから稲門会諸先輩方との交流会を実施して、目黒稲門会の一員となれるように【心の若木会】を定期的に開催しています。

上記活動に加えて、2年前より目黒という地域の活性化という観点から、目黒区の慶応若手との交流会（大福会：大隈の［大］、福沢の［福］を合わせて大福会と命名しています。）も定期的に開催して親睦を深めています。今回は昨年6月に開催した会の写真を掲載いたしますので、会の雰囲気をご確認ください。

なお、昨年の会で早稲田・慶応のカップルが誕生し、本年結婚します。これを一つの成果と捉えこれからも多様な年齢層の交流を目指して頑張っていきます。

会員の広場

―まさかの大隈講堂に登壇―稲門祭参加レポート

石川智子　（平成7年　文）

「稲門祭当日、大隈講堂で、石川さん話してみませんか？ワセジョについて」。そんな光栄すぎる話を頂いたのは、稲門祭の準備が加速し始めた晩夏のこと。

「ワセジョ」とは文字通り早稲田の女子学生とそのOGのことだが、多くの場合いわゆる「女子大生」という言葉がまとう華やかさ・女らしさがすっぽり抜け落ちた存在として呼び習わされる。言うまでもなく蔑称である。

「世に三種の性がある。男、女、そしてワセジョ。」衝撃的なこの分類が学生に浸透しはじめたのは、私が大学入学した頃だった。今では世間一般に認知され、あくまで俗語としてだが一部の国語辞典にも収録される。

そんな「ワセジョ」をテーマに、早稲田OBのジャーナリスト田原総一朗氏主催の「大隈塾」が稲門祭でトークイベントを行うという。しかも登壇者約10名は有名人ではなく在野の名もなきOG有志のみ。

今年の演題は『ワセジョにみる不易流行』。つまり「集まり参じて人は変われど、仰ぐは同じき理想の光」に歌われる、変わるもの変わらないものを探っていく試みだ。大隈塾とOG有志によるこの意欲的な取組は、数年かけて「ワセジョ・ブランド」発信を目指すというから益々面白そうである。

もともと創立者の大隈重信先生は日本女子大学の創立委員長を務めるなど女性の高等教育に早くから目を向けた、まさに「進取の精神」の方であられた。

1939年に総合大学として日本ではじめて女子の学部生4名を受け入れて以来、今では全学生の約3割を女子が占め、その歴史と卒業者数から「日本一の女子大学」とまで言われる。にも関わらず、第三の性とまでいわれる「ワセジョ」は、日本の中で特異な被差別種族であった。

私自身も「女が早稲田なんて」と言われることもしばしば。就職後もいわゆるブルジョア大学や女子大が多い社内で異端児扱いされかねず、大学名を積極的には出せなかった。

早稲田を卒業した女子学生に、短絡的なメリットは少ない。むしろ隠した方が良いくらいだ。特にお洒落な場所や素敵な男性の前では。そう、早稲田は憧れて入学した大好きな母校であるとともに、コンプレックスでもあった。

「早稲田OGの誇りと自覚」は、それでもゆっくりとひたひたと、私の中で育っていた。

「女らしさと早稲田らしさは共存しうる、むしろそんな女性こそこれからの時代に必要だ」という思いが沸々と湧いてくる。何しろ目黒稲門会歴10年を超えるのだ。改めて「早稲田らしさとは何か」と向き合う良いチャンスとして、この光栄なお申し出を受けた。

事前準備の楽しかったこと！目黒にある中西宅で、ワセジョ10数人が集まって飛び交う意見の数々、たまに爆笑・大爆笑。私は特に「早稲田大学校歌」にこそ、男女問わず早稲田の原点が集約されていると実感し、発言に盛り込むことにした。

当日、いよいよ大隈講堂へ。どんな役目であれまさか自分がこの壇上で話すとは。緊張の中、先生方がどんな思いでこの大隈講堂で私たちに語りかけてくれていたのかに思いを馳せ、感謝の思いが湧いた。

会場で目黒稲門会員の方や会社の先輩を見つけた時は嬉しかった。応援団を得た思いで、安心して登壇できた。

今回はあくまでも稲門祭参加レポートだが、当日の内容についても機会があればぜひ寄稿させて頂きたい。

嫌いだった早稲田を、どんどん好きになっていく。恥ずかしかった早稲田が、どんどん誇りになっていく。そうして私は「ワセジョ」の一人として、明日もまた自分を待つ場所へ出向いてゆく。と、嬉しく思えた稲門祭だった。今年の稲門祭も、きっともっと楽しい！

なお稲門祭各種委員はもちろんのこと、本企画では、大隈塾の村田信之さん、企画進行担当の中西千可子さんのお二人の目黒稲門会員にお世話になった。この場を借りて改めてお礼申し上げる。

部会案内一覧

詳細は本誌の各部会報告をご覧いただき、興味をお持ちの部会にお気軽にご連絡下さい。平成27年2月現在

部会名	部会長	連絡先 電話／Fax	参加人数	会費	活動概要
囲碁	永田　耕治	電／F	10数名	300円	毎月　1回（下目黒住区センター）
カラオケ	梶　恵作	電/F	10数名	2,000円 女性　1,500円	毎月　第2金曜　午後4～7時 （コート・ダジュール目黒駅西口店）
食べ歩き	猪名川一雄	携帯	15～20名	5,000円～	年5～6回　程度 「楽しい」がキーワードです
ゴルフ	大杉　邦雄	電／F	20～30名	20,000円程度	年2回春秋 目黒通りバスで送迎
ウォーキング	牧野　武夫	携帯 F	15～20名	その都度	シーズン中は毎月1回程度
麻雀	鵜野　洋治	電／F	10数名	3,000円	年6回　武蔵小山"サン"および 渋谷"スリーハンドレッド"
美術・歴史鑑賞	後藤　克彦	電／F	15～20名	その都度	年4～5回
旅行	井村　正陽	電／F	20～30名	その都度	年2回　春秋
若木会	中西　元樹	電 F	10名程度	その都度	年数回の食事会等の他、幅広い層の参加による「心の若木会」も数回開催
よん月会	安藤　孝	電／F	20～30名	4,000円	毎月　第4月曜　午後6～8時 （「やるき茶屋」都立大学店）
俳句	佐久間　喬	電／F	約20名	12,000円／半年	毎月　第2月曜　午後2～5時 下目黒住区センター
ボランティア	稲垣　博信	電／F	全員	その都度	各種ボランティア活動および 各種支援募金の実施
早稲田スポーツ観戦	狩野　俊夫	携帯	10数名	その都度	年5～6回 早稲田スポーツ好カードの観戦
広報編集委員会	地田　博昌	eメール　meguro-tomonkai@nifty.ne.jp URL　http://homepage3.nifty.com/me96tomon-waseda/			

新入会員

田添麻友（平成17年　政経）
（目黒区中町在住）
趣味：テニス　映画鑑賞

早稲田大学を卒業して、もうすぐ10年になります。仕事に子育てに忙しい日々をおくっておりますが、あらためて早稲田の友、先輩に会えたらいいなと思っています。よろしくお願いいたします。

佐藤光伸（平成16年　政経）
（目黒区下目黒在住）
趣味：フットサル　麻雀

現在、弁護士として勤務しております。目黒稲門会の諸先輩とたくさんお知り合いになり、様々なことを学ばせていただきたいと存じます。

ＨＰ便り

目黒稲門会ホームページ（HP）にはこの会報も掲載されています。また、初号から全ての会報も閲覧できます。

編集後記

1月末、クラブ活動同期の一泊OB会の会場予約にリーガロイヤルホテルに行ってきた。

これまでは熱海、箱根…等で開催してきたが、今年は新校舎竣工でイメージ一新した母校のキャンパスでゆっくりしたいという声があったためである。

リーガロイヤルホテルによれば、キャンパスを見ながらの同窓会はOBにとても人気があるそうである。

幾つかの校舎は高層の近代的な建物に変わったとはいえ、昔の建物の面影も残し、懐かしいキャンパスの雰囲気を失っていないのがとても嬉しい。

残し伝えるべきものは残し、新しきは取り入れる、不易流行はワセジョだけではなさそうだ。

（地田　記）